

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
サービス接遇講座Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	三村 梨恵
授 業 の 概 要				
サービス接遇検定３級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける 接客の基礎を学ぶことによって、動物看護師・ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を身につける お客様心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける				
授業終了時の到達目標				
サービス接遇検定３級合格 社会人として必要な基礎的マナーを身につけ、使用できる お客様の心理を理解することができる 他人への配慮を理解し、実践できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		一般企業で接客業（ショールームアドバイザー）として1年 トリマーとして18年の実務経験 接客業の経験をもとに、動物業界での接客に当てはめて、学生が実践しやすいような授業をする。		
時間外に必要な学修				
買い物や外食した際にスタッフの様子を観察し、良いものは取り入れる、悪いものは自分への教訓とする 保護者や年長者と話して、社会についての知識を得る ニュースを見る習慣をつける アルバイトをしている場合は、授業で学んだことをアウトプットする場とする				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業説明		授業の目的 検定概要 授業の進め方について 評価方法 接客を学ぶ意義	
2	Ⅰ サービススタッフの資質		（１）必要とされる要件 ①明るさと誠実さを、備えている ②適切な判断と表現ができる ③身だしなみを心得ている	
3	Ⅰ サービススタッフの資質		（２）従業条件 ①良識を持ち、素直な態度がとれる ②適切な行動と協調性のある行動を、取ることができる ③清潔感について、理解できる ④忍耐力のある行動を、とることができる	
4	Ⅰ サービススタッフの資質		過去問題 Ⅰ サービススタッフの資質	
5	Ⅱ 専門知識		（１）サービス知識 ①サービスの意義を、一応、理解できる ②サービスの機能を、一応、理解できる ③サービスの種類を知っている （２）従業知識 ①商業用語、経済用語が理解できる 過去問題	
6	Ⅲ 一般知識		（１）社会常識 ①社会常識が理解できる ②時事問題を、一応、理解できる 過去問題	

回	テ ー マ	内 容		
7	Ⅳ対人技能	(1) 人間関係 ①一般的に、人間関係が理解できる (2) 接遇知識 ①対人心理が理解できる ②一般的なマナーを心得ている ③接遇者としてのマナーを心得ている		
8	Ⅳ対人技能	(3) 話し方 ①接遇用語を知っている ②接遇者としての基本的な話し方が理解できる ③提示、説明の仕方が理解できる		
9	Ⅳ対人技能	(4) 服装 ①接遇者としての適切な服装が理解できる 過去問題（選択問題・記述問題）		
10	Ⅴ実務技能	(1) 問題処理 ①問題処理について、理解できる (2) 環境整備 ①環境整備について、理解できる		
11	Ⅴ実務技能	(3) 金品管理 ①金品の管理について、理解できる (4) 社交業務 ①社交儀礼について、理解できる		
12	Ⅴ実務技能	過去問題（選択問題・記述問題）		
13	過去問題	Ⅰ サービススタッフの資質 Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識 Ⅳ 対人技能 Ⅴ 実務技能		
14	期末テスト	Ⅰ サービススタッフの資質 Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識 Ⅳ 対人技能 Ⅴ 実務技能		
15	期末テスト解説	Ⅰ サービススタッフの資質 Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識 Ⅳ 対人技能 Ⅴ 実務技能		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
サービス接遇検定3級公式テキスト タブレット		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
サービス接遇講座Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	三村 梨恵
授 業 の 概 要				
サービス接遇検定2級取得のための勉強を通して、社会人として必要なマナー・接客スキルを身につける 接客の基礎を学ぶことによって、動物看護師・ペットショップスタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する お客様心理を理解することによって、他人へ配慮する気持ちを身につける				
授業終了時の到達目標				
サービス接遇検定2級合格 社会人として必要な基礎的マナーを身につけ、使用できる お客様心理を理解し、それに合った対応をすることができる 他人への配慮を理解し、実践できる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	一般企業で接客業（ショールームアドバイザー）として1年 トリマーとして18年の実務経験 接客業の経験をもとに、動物業界での接客に当てはめて、学生が実践しやすいような授業をする。			
時間外に必要な学修				
買い物や外食した際にスタッフの様子を観察し、良いものは取り入れる、悪いものは自分への教訓とする 保護者や年長者と話して、社会についての知識を得る ニュースを見る習慣をつける アルバイトをしている場合は、授業で学んだことをアウトプットする場とする				
回	テ ー マ	内 容		
1	I サービススタッフの資質	（１）必要とされる要件 ①明るさと誠実さを、備えている。 ②適切な判断と表現ができる。 ③身だしなみを心得ている。		
2	I サービススタッフの資質	（２）従業要件 ①良識を持ち、素直な態度が取れる。 ②適切な行動と協調性のある行動を、取ることができる。 ③清潔感について、理解できる。 ④忍耐力のある行動を、取ることができる。		
3	I サービススタッフの資質	過去問題		
4	Ⅱ 専門知識	（１）サービス知識 ①サービ意義を理解できる。 ②サービスの機能を理解できる。 ③サービスの種類を理解できる。		
5	Ⅱ 専門知識	（２）従業知識 ①商業活動、経済活動が理解できる。 ②商業用語、経済用語が理解できる。 過去問題		
6	Ⅲ 一般知識	（１）社会常識 ①社会常識がある ②時事問題を理解している 過去問題		

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
7	Ⅳ対人技能	(1) 人間関係 ①人間関係の対処について、理解がある (2) 接客知識 ①顧客心理を理解し、能力を発揮することができる ②一般的なマナーを発揮できる ③接客者としてのマナーを発揮することができる		
8	Ⅳ対人技能	(3) 話し方 ①接客用語を知っている ②接客者としての話し方ができる ③提示、説明ができる (4) 服装 ①接客者としての適切な服装ができる		
9	Ⅳ対人技能	過去問題（選択問題・記述問題）		
10	Ⅴ実務技能	(1) 問題処理 ①問題処理について、対処できる (2) 環境整備 ①環境整備について、対処できる		
11	Ⅴ実務技能	(3) 金品管理 ①金品の管理について、能力を発揮できる		
12	Ⅴ実務技能	(4) 金品輸送 ①送金、運搬について、理解できる		
13	Ⅴ実務技能	(5) 社交業務 ①社交儀礼の業務について理解し、処理できる能力がある		
14	期末テスト	Ⅰ サービススタッフの資質 Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識 Ⅳ 対人技能 Ⅴ 実務技能		
15	期末テスト解説	Ⅰ サービススタッフの資質 Ⅱ 専門知識 Ⅲ 一般知識 Ⅳ 対人技能 Ⅴ 実務技能		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
サービス接客検定２級公式テキスト タブレット		期末試験	100.0%	検定結果を期末の 代わりとします。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける				
授業終了時の到達目標				
自己PRや志望動機など履歴書に必要な項目を自ら考えて表現することが出来る 就職活動の進め方を理解し自主的に活動することが出来る				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
将来の就職先及び業界について企業研究を行っておく 「物の見方」「考え方」「行動の仕方」を意識的に前向きにして「気づくこと」を習慣化する				
回	テ ー マ		内 容	
1	動機付け 社会人基礎講座で学ぶこと		動機付け 社会人基礎講座で学ぶことの解説 他の科目や社会に出てからの関連性の解説	
2	話の聴き方		聞く耳を持つことが成長につながることを説明する まず、授業・学生生活で実行するよう促す	
3	偶然がつくる人生		意識の持ち方で見えるものが変わっていくことを説明する	
4	モノの見方		自分のモノの見方の特徴を把握する モノの見方を広くする方法について モノの見方を広くするための行動について モノの見方の難しさを再確認する	
5	就職活動の世界を知る		就職活動の心構えについて 就職活動の目的を考える 自分の何を伸ばすのかを考える 自分の中で補うポイントを把握する	
6	記憶をたどる		自分が過去に経験したことを振り返る 経験から身につけた自分の強みを明確にする	
7～ 8	自分を知る工夫		自分の特徴をアウトプットする 他者取材を通して表現の幅を広げる 他者の表現から学び取る力	
9～ 12	履歴書の書き方と伝え方		履歴書の左半分を書く上での注意点を解説する 履歴書を下書きをして清書するまでの作業を行う 志望動機以外の欄の下書きを作成する 自己紹介・趣味特技・特記事項を作成する 資格・免許・表彰を記入させる 志望動機以外の欄の清書を完成させる 志望動機の作成方法を解説する	
13	情報収集		業界研究と仕事研究 情報検索の方法	
14	興味がある仕事について		仕事内容と求める人材について調べる 自分の現状を課題と具体的行動を考える	
15	まとめ		今までの振り返り 履歴書の完成	

回	テ ー マ		内 容	
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材 就職の手引き	課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
犬種標準学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 真紀
授 業 の 概 要				
講義				
日本で飼われている種類を抜粋し生態、外観、飼育方法を身につける				
授業終了時の到達目標				
犬の種類や特徴を知り訓練や販売や看護の仕事で役にたつようにする 犬の生態を知ることによって扱いに気を配ることができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	トリマー、ブリーダー、ハンドラーとして28年 常にお客様から受ける相談をもとに授業をすすめる。			
時間外に必要な学修				
グルーミング実習時に担当した犬種をよく観察すること				
準備学習				
回	テ ー マ		内 容	
1	なぜ犬の種類ができたのか		犬の種類がなぜ増えていったのかを説明する	
2	犬の体を知ろう		犬の部位名称や歯列やかみ合わせの説明	
3	第1グループ犬種説明と 各犬種の説明		第1グループに属する犬種の特徴と各犬種の特徴 オーストラリアン・シェパード・ボーダーコリー	
4	第1グループ犬種説明と 各犬種の説明		ウエルシュ・コーギーペンブローク ウエルシュ・コーギーカーディガンの違いの説明	
5	第1グループ犬種説明と 各犬種の説明		ジャーマンシェパードの説明 シェパードの歴史と牧羊犬の役割の解説	
6	第1グループ犬種説明と 各犬種の説明		ラフ・コリーとスムース・コリー、シエルティの解説 作出に関しての歴史の説明	
7	第2グループ犬種説明と 各犬種の説明		大型犬の作出の歴史を説明 グレート・ピレニーズの解説	
8	第3グループ犬種説明と 各犬種の説明		テリアの特徴の説明と ジャックラッセルの説明	
9	第3グループ犬種説明と 各犬種の説明		ウエストハイランドホワイトテリア スコティッシュテリア 短脚テリアのまとめ	
10	第3グループ犬種の説明 各犬種の説明		長脚テリアの特徴の説明 種類の解説 管理方法	
11	第3グループ犬種の説明 各犬種の説明		ヨークシャテリアの説明 それに影響された犬種の説明	
12	第3グループ犬種の説明 各犬種の説明		ワイヤーフォックステリア説明	
13	小テスト		期末試験までの準備のため	
14	期末試験のためのおさらい			
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
最新犬種図鑑		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
犬種標準学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 真紀
授 業 の 概 要				
講義 犬種の特徴を知り、訓練、美容、看護の分野で役に立つようにする				
授業終了時の到達目標 犬の特徴を知りお客様の相談に対応できるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	トリマー、ハンドラー、ブリーダー歴28年の経験から 日頃お客様と対応する内容をもとにアドバイスができる			
時間外に必要な学修 実習関連時に犬をよく観察すること				
回	テ ー マ	内 容		
1	第4グループ犬種説明	ダックスフンドの特徴と沿革の説明		
2	第5グループ犬種説明と 各犬種の解説	シベリアンハスキーとアラスカンマラミュートの違い		
3	第5グループ犬種説明と 各犬種の解説	ポメラニアンや他のスピッツタイプの説明		
4	第5グループ犬種説明と 各犬種の解説	日本犬の特徴と説明		
5	第6グループ犬種説明と 各犬種の解説	ビーグルなどの説明		
6	第6グループ犬種説明と 各犬種の解説	ダルメシアンの特徴		
7	第7グループ犬種説明と 各犬種の説明	セターとワイマラナーの説明		
8	第8グループ犬種説明と 各犬種の説明	アメリカン・コッカーの説明		
9	第8グループ犬種説明と 各犬種の説明	スパニエル系のまとめ		
10	第8グループ犬種説明と 各犬種の説明	レトリバー系のまとめ		
11	第9グループ犬種説明と 各犬種の説明	プードルの説明		
12	第9グループ犬種説明と 各犬種の説明	チワワキャバリアなどの説明		
13	小テスト	期末試験の準備		
14	第10グループ犬種説明と 各犬種の説明	サイトハウンドの特徴		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容	
最新犬種図鑑		期末試験	100.0% 準備学習 次にする犬種をイメージするために 本を読んでおく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
グルーミング実習BASIC I		動物看護総合学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	10回	0単位（20時間）	必須	森, 野崎, 北村, 糸瀬, 三村
授 業 の 概 要				
グルーミングに必要な犬の扱いと、美容用具の扱い方を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
正しい作業方法を覚える				
実務経験有無		実務経験内容		
有	【実務経験】	吉本真紀	トリマーとして36年	
		森 純子	トリマーとして19年	
		三村梨恵	トリマーとして17年	
		北村俊也	トリマーとして5年	
		野崎真優	トリマーとして4年	
		糸瀬春奈	トリマーとして3年	
	豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	導入	実習における注意事項を説明 道具の種類および使用方法を説明 グルーミングの作業の流れを説明		
3～10	基礎	シザーの持ち方・開き方を学ぶ ブラッシング・ペイジング・ドライイング・爪切り・耳そうじの方法を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ドッググルーミングマニュアル		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
グルーミング実習BASICⅡ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森, 野崎, 北村, 糸瀬, 三村
授 業 の 概 要				
グルーミング作業（ブラッシング・ペイジング・ドライイング・爪切り・耳そうじ・クリッピング・足回り）をできるようになる				
授業終了時の到達目標				
1人でグルーミング作業をできるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	【実務経験】	吉本真紀	トリマーとして36年	
		森 純子	トリマーとして19年	
		三村梨恵	トリマーとして17年	
		北村俊也	トリマーとして5年	
		野崎真優	トリマーとして4年	
		糸瀬春奈	トリマーとして3年	
	豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～15	基礎の復習	グルーミング犬種を中心に実習を行い前期に学んだ基礎の復習を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新ドッググルーミングマニュアル		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
トレーニング実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	実習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村尾智, 藤原	
授 業 の 概 要					
犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ					
授業終了時の到達目標					
訓練基礎を習得することが出来る(待て、おすわり)					
実務経験有無		実務経験内容			
有		トレーナーとして35年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修					
【準備学習】テキストを読んで予習をしておく					
回	テ ー マ		内 容		
1～14	基本学習		おやつ・言葉のタイミング		
15	期末試験（実技試験）		期末試験（実技試験）の実施		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
JKC訓練基本マニュアル			実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トレーニング実習Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村尾智, 藤原
授 業 の 概 要				
犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ				
授業終了時の到達目標				
基礎訓練を習得する（脚側行進・伏臥・停座・据座・立止・招呼）				
実務経験有無		実務経験内容		
有		トレーナーとして35年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
【準備学習】テキストを読んで予習をしておく				
回	テ ー マ		内 容	
1～15	行動学習		脚側行進・伏臥・停座・据座・立止・招呼	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
JKC訓練基本マニュアル		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物行動学		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
動物、おもに犬についての生態、行動を学び理解する。				
動物と人間がいかに共存できるか学習する。				
授業終了時の到達目標				
動物の行動習性について正しい知識を学ぶことができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		トレーナーとして25年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	生得的行動・習得的行動		遺伝・行動・学習ができる	
3～ 4	パブロフの犬		条件付け・古典的条件付け・条件反射・無条件反射ができる	
5～ 6	オペラント条件付け		イルカトレーニング・クリックートレーニングができる	
7～ 9	犬の五感		臭覚・視覚・聴覚・触覚・味覚を知る	
10～ 12	ホルモンと行動		去勢・避妊を知る	
13～ 15	愛護		パピーミル・殺処分・子犬の流通システムを知る	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物形態機能学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化についても学ぶ基盤を確立する。 3億6000万年前に誕生した脊椎動物は種々の進化を経て現在に至っている。哺乳類がとげた進化の中で恒常性の維持（ホメオスタシス）に関わる形態、機能こそ生命を維持する基礎となっている。それらを学習することによって正常な形態、機能を理解し、そこから病態における有効な看護を考える。				
授業終了時の到達目標				
細胞の基本構造について説明できる。 循環器系について説明ができる。 呼吸器系について説明ができる。 消化器系について説明ができる。 泌尿器系について説明ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療 37年 動物系専門学校における動物看護系教員 14年		
時間外に必要な学修				
特になし				
回	テ ー マ	内 容		
1	動物体の構造と機能を学ぶために	動物体の形態、構造、機能について、何を学ぶか 動物形態機能学概論		
2	体のつくりと働き	動物の分類、身体的位置を示す用語、身体の基本構造、細胞～動物体へ		
3	生命のすがた①	体を作る構造 細胞 多くの細胞からなる組織		
4	生命のすがた②	細胞分裂と増殖		
5～6	生命のすがた③	細胞内液、細胞外液、電解質		
7～12	栄養の消化と吸収	口・咽頭・食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能 脾臓・肝臓・胆のうの構造と機能		
13～18	呼吸と血液のはたらき	呼吸器の構造 呼吸 血液		
19～24	血液の循環とその調節	循環器の構成 心臓の構造 心臓の拍出機能 末梢循環系の構造 血液循環の調節 リンパとリンパ管		
25～29	体液の調節と尿の生成	腎臓 排尿路 体液の調節		
30	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト2「動物のからだの構造と機能」（ファームプレス） 専門基礎分野「動物形態機能学」（インターズー）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物形態機能学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化についても学ぶ基盤を確立する。				
授業終了時の到達目標				
内分泌系について説明ができる。 自律神経系について説明ができる。 生殖器系について説明ができる。 骨格系・筋系について説明できる。 外部環境からの防御について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療 37年 動物系専門学校における動物看護系教員 14年		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～8	内臓機能の調節		自律神経による調節 内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	
9～15	身体の支持と運動		骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋 体幹の骨格と筋 前肢の骨格と筋 後肢の骨格と筋 頭頸部の骨格と筋 筋の収縮	
16～23	情報の受容と処理		神経系の構造と機能 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脳の高次機能 運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路 眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡感覚 味覚と嗅覚 疼痛（痛み）	
24～29	外部環境からの防御		皮膚の構造と機能 生体の防御機構 体温とその調節	
30	期末試験		期末試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト2「動物の「からだの構造と機能」（ファームプレス） 専門基礎分野「動物形態機能学」（インターズー）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物感染症学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	鈴木　ひとみ
授 業 の 概 要				
伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師としての10年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テ　　マ		内　　　容	
1	感染・感染症とは		感染、発症、感染症の定義が言えるようになる。また、感染症の経過を理解する	
2	感染症の種類		感染症の種類について学習し、それぞれの意味を答えられるようになる	
3	感染が成り立つには		感染が成立するために必要な3つの要因が言えるようになる。それに加えて、感染が成立するか否かを決める3つの力関係についても学習する	
4	微生物学		微生物の定義、その対象、性状の違いを知る 病原微生物とは何かが説明できるようになる	
5	微生物学 細菌		細菌の性状を知る 細菌の構造を知る	
6	微生物学 細菌		細菌を観察する際に行う染色について学ぶ 細菌の発育や増殖に必要な栄養素と、増殖に関わる因子を知る	
7	微生物学 イヌ、ネコの主な細菌感染症		イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ	
8	微生物学 イヌ、ネコの主な細菌感染症		イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ	
9	微生物学 真菌		真菌とは何か、その形態と増殖様式を知る 主な病原性真菌と検査法について学ぶ	
10	微生物学 イヌ、ネコの主な真菌感染症		イヌ、ネコの主な真菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ	
11	微生物学 原虫		原虫とは何かを知り、その分類と増殖様式、検査法を学ぶ	
12	微生物学 イヌ、ネコの主な原虫感染症		イヌ、ネコの主な原虫感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ	
13	微生物学 ウイルス		ウイルスとは何か、その性状と分類について学ぶ ウイルスの増殖と、感染の経過について学ぶ	
14	微生物学 イヌの主なウイルス感染症		イヌの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ	

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護の教科書第3巻（緑書房）		期末試験 出席率	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物感染症学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	鈴木　ひとみ
授 業 の 概 要				
伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。				
授業終了時の到達目標				
感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師としての10年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	試験見直しと復習		感染症学Ⅰの試験の見直しと感染症学Ⅰの内容を復習する	
2	復習		感染症学Ⅰの内容を復習する	
3	感染症⑪		動物に関連する感染症について学ぶ	
4	感染症⑫		動物に関連する感染症について学ぶ	
5	感染症⑬		動物に関連する感染症について学ぶ	
6	感染症⑭		動物に関連する感染症について学ぶ	
7	感染症⑮		動物に関連する感染症について学ぶ	
8	感染症⑯		動物に関連する感染症について学ぶ	
9	中間まとめ①		ここまで学んだ内容について復習する	
10	中間まとめ②		ここまで学んだ内容について復習する	
11	ワクチン①		ワクチンの仕組みについて学習する	
12	ワクチン②		ワクチンの仕組みについて学習する	
13	ワクチン③		ワクチンの種類、内容について学習する	
14	最終まとめ		感染症学Ⅱで学んだことを復習する	
15	期末試験		期末試験の実施	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
動物看護コアテキスト3巻（ファームプレス）		期末試験	100.0%	【準備学習】 次回の授業内容を 踏まえてテキスト を用いて予習する マンガ「はたらく さいぼう」を読む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護学概論		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
小動物診療は、ますます高度化し動物病院においては獣医師の他に、種々の動物医療関連業務に携わり、かつ飼い主に対する適切な世話や指導を行う動物看護師の重要性が大きくなってきた。獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、社会的債務を理解した動物看護師として獣医師の補助的サポートだけではない、専門職としての職業意識を形成する。				
授業終了時の到達目標				
動物看護師の職域を理解し、動物病院において獣医師・飼い主双方のサポートを行うことのできる人材となる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として、22年間動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	動物看護学概論①		動物看護学の中で、動物看護の基本となる概念を学ぶ	
3～4	動物看護学概論②		動物看護学を学ぶ上で、業務を考える	
5～6	動物看護学概論③		動物看護師の倫理について考える	
7～8	動物看護学概論④		動物看護学が必要な場面とはどんな場面なのか。そして動物看護師が活躍できるのはどんな時なのかを学ぶ。	
9～10	動物看護学概論？		動物看護を実行するうえで必要な動物看護師の技術について学ぶ。	
11～12	動物看護学概論？		診療場面での動物看護師の役割について知る	
13～14	動物看護学概論⑦		獣医療の歴史、動物看護と国家資格化の軌跡を知る	
15	期末テスト		期末テスト	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻（エデュワードプレス） 配布資料		期末試験	100.0%	

作成者:長尾 美花

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物愛護・適正飼養関連法規		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
愛護・適正飼養関連法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する				
授業終了時の到達目標				
愛護・適正飼養関連法規と動物看護師の関わりについて説明できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	動物看護師として22年間、動物病院に勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	愛護・適正飼養の基本となる概念	愛護・適正飼養に関連する法規		
3～4	野生動物等に関する法律および条約	野生動物等に関する法律および条約の概要		
5～6	社会福祉行政・環境衛生法規	社会福祉行政・環境衛生法規の概要		
7	まとめ	まとめ		
8	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護学総論		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには獣医師の職域とは異なる動物看護師の視点で動物を見られるようになることが必要である。「動物臨床看護学総論」では、動物看護学各論で学んだ概要を再度復習し、動物看護師の役割、目的などを振り返る。動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、補助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せず、習性や生態もちがう動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭でのお世話を継続して貰うために非常に大切である。チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。 【実務経験】相澤梨子：動物看護師として4年半の実務経験。これまでの臨床経験を活かし、分かりやすくイメージしやすいように授業を展開する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として、22年間動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	動物看護学概論	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す		
2	動物看護学概論 2	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について知ることができる		
3	動物看護学概論 3	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について知ることができる		
4	動物看護者の倫理綱領	「動物看護者の倫理綱領2009」について学ぶ		
5	動物看護技術の基盤	動物看護を遂行する動物看護者に必要な技術について		
6	動物看護技術の基盤 2	動物看護を遂行する動物看護者に必要な技術について		
7	動物看護技術の基盤 3	動物看護を遂行する動物看護者に必要な技術について		
8	症状別の動物看護	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
9	症状別の動物看護 2	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
10	症状別の動物看護 3	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
11	症状別の動物看護 4	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		

回	テ ー マ	内 容		
12	症状別の動物看護 5	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
13	症状別の動物看護 6	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
14	症状別の動物看護 7	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
15	症状別の動物看護 8	臨床的な症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護の教科書（緑書房）		期末試験	100.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護関連法規		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
獣医療における動物看護師の職域や身分などを明示した法令はない。獣医師とのチーム獣医療を構成する動物看護師は、動物看護師が行う獣医医療関連の業務とそれを取り巻く法律の仕組みを基礎から理解し、獣医療現場及び公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として遵守の精神を養う必要がある。また、社会人として知っておくべき法規について学習する。2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護者の倫理綱領2009」と「動物看護者の業務指針」（2012）についても学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
獣医療に関わる法律について理解し、動物と人が共存する社会の安全を守るために貢献する動物看護師になる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として22年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	法規の概念		法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける	
2	動物看護師を取り巻く獣医療関連法規のアウトラインについて		動物看護師を取り巻く法律の概要を知る	
3	動物看護師の職域に関連する法規①		法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける	
4	動物看護師の職域に関連する法規②		法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける	
5	動物愛護及び管理に関する法律①		法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける	
6	動物愛護及び管理に関する法律②		法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける	
7	身体障害者補助犬法		法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける	
8	まとめ		まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5（EDUWARD Press）		課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
愛玩動物学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
愛玩動物看護師は様々な動物の看護に携わる可能性があり、また、その飼い主へ飼養管理指導をする場面も想定される。前期では犬と猫の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育方法について理解する。また、使役動物の役割や社会的な意義を理解する。				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物の特性を学びそれぞれの動物の看護を適切に実践することができる、また、飼い主へ適切な飼養管理をアドバイスできる。 ・犬の歴史と代表的な品種、その活用や品種に適したグルーミングを理解し、説明することができる。 ・猫の歴史と代表的な品種、その活用や品種に適したグルーミングを理解し、説明することができる。 ・犬と猫について、飼育方法の基本や衛生管理を理解し、看護に活かすことができる。 ・使役動物について理解し、説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療経験 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練経験 7年		
時間外に必要な学修				
各項目についての復習 各章ごとに実施される課題の提出または確認テストのための学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～5	犬の歴史・品種・飼養管理		1) 歴史 2) 現在の飼養状況 3) 犬の活用 4) 代表的な品種の特徴 5) 飼養管理 6) 品種に適したグルーミング	
6～8	猫の歴史・品種・飼養管理		1) 歴史 2) 現在の飼養状況 3) 猫の活用 4) 特徴 5) ライフサイクル 6) 代表的な品種の特徴 7) 飼養管理 8) 品種に適したグルーミング	
9	血統と血統書		1) 血統書の意義 2) 血統書の読み取り方 3) 血統管理と品種改良	
10～13	動物の基本的な取り扱い		1) 動物を安全に散歩・運動させ、触れ合わせることの意義 2) 基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門腺処置、口腔内衛生管理など） 3) 定期的な予防管理 4) 適切な飼養環境やストレスの緩和方法	
14	使役動物		1) 使役動物の歴史と福祉 2) 身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬） 3) その他の使役犬	
15	期末試験		期末試験実施	
教科書・教材			評価基準	評価率
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻（エデュワードプレス） 愛玩動物看護師の教科書6（緑書房） 愛玩動物看護師必携テキスト（学研） イラストでみる猫学（講談社）			課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%
				その他

回	テ	ー	マ	内	容

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
愛玩動物学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
愛玩動物看護師は様々な動物の看護に携わる可能性があり、また、その飼い主へ飼養管理指導をする場面も想定される。エキゾチックアニマルの歴史や品種、身体的特徴、適切な飼育方法、代表的な病気について理解する。				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物の特性を学びそれぞれの動物の看護を適切に実践することができる、また、飼い主へ適切な飼養管理をアドバイスできる。 ・愛玩鳥の特性や飼養管理を理解し、看護に活かすことができる。 ・ウサギの特性や飼養管理を理解し、看護に活かすことができる。 ・フェレットの特性や飼養管理を理解し、看護に活かすことができる。 ・げっ歯類の特性や飼養管理を理解し、看護に活かすことができる。 ・は虫類の特性や飼養管理を理解し、説明することができる。 ・エキゾチックアニマルの繁殖過程を理解し、説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練業務 7年		
時間外に必要な学修				
各項目についての復習				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理		0. エキゾチックアニマルとは 1. 歴史 2. 現在の飼養状況 3. 代表的な品種の特徴 4. 飼養管理	
5～6	ウサギの特徴・生態・飼養管理		1. 背景 2. 特徴 3. 飼養管理	
7	フェレットの特徴・生態・飼養管理		1. 背景 2. 特徴 3. 飼養管理	
8～9	げっ歯類の特徴・生態・飼養管理 （ハムスター・モルモット・リス）		1. 背景 2. げっ歯類の分類・生態・特徴 3. げっ歯類の飼養管理	
10	は虫類（カメ）の特徴・生態・飼養管理		1. 背景と品種 2. 性質と特徴 3. 飼育管理	
11	は虫類（トカゲヤモリ）の特徴・生態・飼養管理		1. 背景と品種 2. 性質と特徴 3. 飼育管理	
12	は虫類（ヘビ）の特徴・生態・飼養管理		1. 背景と品種 2. 性質と特徴 3. 飼育管理	
13	エキゾチックアニマルの繁殖過程		1. 性周期 2. ウサギ 3. げっ歯類 4. フェレット 5. 鳥類	

回	テ ー マ	内 容		
14	期末試験			
15	期末試験の振り返り			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6 巻(エデュワードプレス) 愛玩動物看護師の教科書6(緑書房) やさしいエキゾ学 (インターズー) カラーアトラス エキゾチックアニマル 鳥類偏 (緑書房)		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤小, 長尾, 林
授 業 の 概 要				
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無	実務経験内容			
有	動物看護師として、動物病院に7年間勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～6	身体検査①	全身状態の評価法を学ぶ		
7～12	身体検査②	バイタルサインの評価法を学ぶ		
13～15	診察補助①	診察の準備や診察の衛生管理を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物内科看護学（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト		期末試験 実習・実技評価	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
動物内科看護学実習Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	実習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	齋藤小, 長尾, 林	
授 業 の 概 要					
講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に着ける。 また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。 動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。					
授業終了時の到達目標					
修得した知識の実践力を身につける					
実務経験有無		実務経験内容			
有		動物看護師として20年間、動物病院で勤務			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1	オリエンテーション		1年時の復習		
2	注射薬充填		皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の部位を学び、注射時の保定の手技を身につける犬猫の取扱いを知り、基本的な保定法を身につける		
3	狂犬病注射実施		狂犬病注射実施時の看護師の役割を果たす		
4	フィラリア検査		フィラリア検査法について		
5～6	消毒法		消毒薬の種類、消毒法について理解する		
7～8	輸液管理		輸液の目的を理解し、適切な準備接続および操作方法が実践できる		
9～10	採血		採血時の保定に必要な解剖生理学を学ぶ		
11	検体処理		検体の適切な取り扱いを身につける		
12	調剤		調剤用語・計算方法		
13	実技テスト		実技テスト		
14	まとめ		前期まとめ		
15	期末テスト		期末テストを実施		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト			期末試験 実習・実技評価 出席率	60.0% 30.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い知識を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
・ 動物病院の概要（地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理解する ・ 動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する ・ 学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ること、必要性や目的を理解し、意欲の向上を図る				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～5	理解型実習	オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する		
6～10	理解型実習	獣医師・動物看護師の業務内容（役割の違い、一日の流れなど）を把握する		
11～15	理解型実習	動物病院の施設を見学し、施設の概要や機能を理解する		
16～20	理解型実習	動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する		
21～25	理解型実習	学習者として適切に行動できるよう、社会常識やマナーを実践する		
26～30	理解型実習	学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連を知り、必要性を理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	・「動物看護総合実習」の成績評価については、インターンシップ評価表の結果をもとに点数化し評価する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅰ		動物看護総合学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤小, 長尾, 林
授 業 の 概 要				
内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院で動物看護師として20年間勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	健康の保持・増進		健康診断の内容と目的	
4	診療補助に必要な技術①		診察における愛玩動物看護師の役割	
5	診療補助に必要な技術②		診察の準備と衛生管理	
6	診療補助に必要な技術③		・動物種ごとに応じた適切な接し方 ・保定の基本、目的および方法	
7	診療補助に必要な技術④		身体検査とアセスメント項目	
8	検査・処置に必要な技術①		注射器の取り扱いおよび管理方法	
9	検査・処置に必要な技術②		採血の目的と方法	
10	検査・処置に必要な技術③		・採尿の目的と方法 ・穿刺と吸引 ・各種カテーテル挿入	
11	検査・処置に必要な技術④		・酸素吸入とは ・マイクロチップの挿入	
12	投薬に関わる技術①		・薬の処方 ・内服薬の使用法 ・注射の注射法	
13	投薬に関わる技術②		・外用薬の使用法 ・薬浴の実施法 ・投薬前後の注意事項	
14	まとめ			
15	期末試験		期末試験の実施	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・動物看護コアテキスト第3版「臨床動物		期末試験	80.0%	

回	テ ー マ	内 容		
看護学 I （動物内科看護学）		出席率	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅱ		動物看護総合学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤小, 長尾, 林
授 業 の 概 要				
講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に着ける。 また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。 動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
修得した知識の実践力を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として20年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	1年時の復習		
2	注射薬充填	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の部位を学び、注射時の保定の手技を身につける犬猫の取扱いを知り、基本的な保定法を身につける		
3	狂犬病注射実施	狂犬病注射実施時の看護師の役割を果たす		
4	フィラリア検査	フィラリア検査法について		
5～6	消毒法	消毒薬の種類、消毒法について理解する		
7～8	輸液管理	輸液の目的を理解し、適切な準備接続および操作方法が実践できる		
9～10	採血	採血時の保定に必要な解剖生理学を学ぶ		
11	検体処理	検体の適切な取り扱いを身につける		
12	調剤	調剤用語・計算方法		
13	実技テスト	実技テスト		
14	まとめ	前期まとめ		
15	期末テスト	期末テストを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト		期末試験 実習・実技評価 出席率	60.0% 30.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コンピュータ実習Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山村 恭子
授 業 の 概 要				
・ 情報化社会の現在、必須の能力とされているパソコンスキルを習得するため、パソコン演習を通し、パソコンの基本操作を学び、文書作成ソフト(Word)の操作と文書作成能力を養う				
授業終了時の到達目標				
・ Word文書処理技能認定試験3級(サーティファイ) 合格 ・ Wordを用いて簡単なビジネス文書を作成することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	【実務経験】山村 恭子 ・ 企業研修・国立大学・私立大学・専門学校・職業訓練校などでoffice全般指導 ・ 建築会社において営業事務兼CADオペレーターとして勤務（社内でofficeを使用しての表計算・社内・社外文書の作成・プレゼン資料の作成など）			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 授業の目的、評価方法 Windowsの基本操作 ・ 授業の目的、評価方法 Windowsの基本操作 1. Wordの基本 2. 文字の入力と編集の基本操作		※授業の目的と、評価方法の説明 Windowsの概要、基本操作(アプリ操作、エクスプローラ)について理解する Microsoft Officeの概要、各ソフトの特徴、Wordの起動・終了 日本語入力システム、文字の入力と変換、文書の保存 Microsoft Officeの概要、各ソフトの特徴、Wordの起動・終了	
2	2. 文字の入力と編集の基本操作 3. 文書の編集 4. 文書の印刷		文書の呼び出し、文字列のコピーと移動 ページの書式設定、文字の書式設定、字下げ、禁則処理、均等割付 ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認方法	
3	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題2、4の問題1と問題2部分の答練		練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する	
4	3. 文書の編集 5. 文書の作成 6. 表を使った文書の作成		罫線と網かけ 段落番号、箇条書き、インデント、タブ設定 表の作成、表の編集、表の装飾	
5	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題2、4の問題3と問題4(図形や画像抜いた)部分の答練		練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する	

回	テ ー マ	内 容		
6	7. 図形や画像を使った文書の作成	図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 ヘッダーやフッターへの図形や画像、ワードアートの挿入		
7	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題2、4の問題4(図形と画像部分)と問題5部分の答練	練習問題を解くことで、今まで演習した部分の操作方法を習得する		
8	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題1の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
9	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題2の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
10	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級練習問題3の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
11	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題4の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
12	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題5の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
13	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題6の答練	練習問題1セットを最初から最後まで解き完成させる 2, 3人で1グループを作成し、グループごとに操作が分からない生徒にわかる生徒が教え、グループ別に完成度を競わせる		
14	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級模擬問題7の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
15	Word文書処理技能認定試験3級問題集 3級サンプル問題の答練	試験と同じように時間をはかり採点することにより、模擬試験で問題に慣れ、正答率を高める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Wordクイックマスター2016基本編(ウィネット) 2016対応Word文書処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)		確認テスト 課題・レポート 出席率	50.0% 30.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
サービス接遇講座Ⅲ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	10回	1単位（20時間）	必須	三村 梨恵
授 業 の 概 要				
サービス接遇検定準1級に合格する接客の基本スキルを身につける 接客の基本を学ぶことにより、ペット業界スタッフとしての業務をストレスなく行える力を習得する グループ練習を通して、多様性を理解し、協調性とコミュニケーション力を習得する				
授業終了時の到達目標				
サービス接遇検定準1級合格 社会人として必要な基礎的マナーを身につけ、使用できる（敬語・お辞儀） お客様に好感を持たれる接客ができる 他の模範となるような接客ができる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	一般企業で接客業（ショールームアドバイザー）として1年 トリマーとして18年の実務経験 接客業の経験をもとに、動物業界での接客に当てはめて、学生が実践しやすいような授業をする。			
時間外に必要な学修				
買い物や外食した際にスタッフの様子を観察し、良いものは取り入れる、悪いものは自分への教訓とする。 保護者や年長者と話して、社会についての知識を得る。 アルバイトをしている場合は、授業で学んだことをアウトプットする場とし、接客スキルを上げる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業内容オリエンテーション 検定概要について	授業の目的 検定概要 授業の進め方について 評価方法について 準備物について		
2	基本言動 接客応答	「基本言動」「接客応答」を理解する 検定の流れを理解する 基本言動 「いらっしゃいませ」 「ありがとうございました」 「はい、承知しました」 「いかがでございますか」 接客応答 「お客様、お忘れ物でございますが」 「お客様、お荷物をお預かりいたします」 「どうぞご自由にお持ちくださいませ」 「ご案内いたしますのでこちらへどうぞ」 「ご注文はお決まりになりましたでしょうか」 「こちらのお品物でよろしいでしょうか」		
3	基本言動 接客応答	グループ練習 タブレットで録画し、自分の動作を確認する お客様にどうみられているかを理解する		
4	接客対応	八百屋の店員になって接客をする お客様にあわせた接客ができるようになる		
5	練習	検定と同じレイアウトで練習する グループ練習 検定の流れを理解する タブレットで録画し、復習する		

回	テ ー マ	内 容		
6	練習	検定と同じレイアウトで練習する グループ練習 検定の流れを理解する タブレットで録画し、復習する		
7	確認テスト	1組確認テスト 2組グループ練習 2組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
8	確認テスト	2組確認テスト 1組グループ練習 1組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
9	期末テスト	1組期末テスト 2組グループ練習 2組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
10	期末テスト	2組期末テスト 1組グループ練習 1組はタブレットで撮影し、Google classroomに提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
サービス接遇検定準1級受験ガイド（プリントにて配布） サービス接遇検定2級＋準1級 集中レッスン&問題集（プリントにて配布） タブレット		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ペット美容学Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 真紀
授 業 の 概 要				
座学 実技 実務経験 吉本 真紀：トリマーとして28年 これまでの経験を生かし授業を展開した同時にライセンス試験のための対策も行う。				
授業終了時の到達目標				
一般社団法人 全国動物専門学校協会 サロントリマー3級取得				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	プードルケネル&ラム		クリッパー実演	
3～ 5	プードルケネル&ラム講義		全体の切り方の注意事項の説明	
6～ 7	プードルマイアミ		絵を書く カットの説明	
8～ 9	プードルボレロマンハッタン		絵を書く カットの説明	
10～ 11	サロントリマー 3級試験対策		過去問題を解きながら対策	
12～ 13	今までのおさらい		仕事で使う事例でのおさらい	
14～ 15	スタンダードに基いて考えるトリミング		骨格などの説明	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
JKCドッググルーミングマニュアル		期末試験	100.0%	授業前に過去問題を復習すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トリミング実習BASIC I		動物看護総合学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森, 野崎, 北村, 糸瀬, 三村
授 業 の 概 要				
1年次のグルーミング実習の復習とスピードアップ 部分的・簡易的な全身カットに必要な、トリミング技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
全国動物専門学校協会 サロントリマー3級合格 2時間以内にグルーミング作業を終わられるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	【実務経験】	吉本真紀	トリマーとして36年	
		森 純子	トリマーとして19年	
		三村梨恵	トリマーとして17年	
		北村俊也	トリマーとして5年	
		野崎真優	トリマーとして4年	
		糸瀬春奈	トリマーとして3年	
	豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～15	基礎	1年次の復習とスピードアップ 部分的なカットを学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロが教えるベストトリミング ドッググルーミングマニュアル		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トリミング実習BASICⅡ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森, 野崎, 北村, 糸瀬, 三村
授 業 の 概 要				
グルーミング作業の効率・スピードUPを目指す 部分カットに必要な、トリミングの基礎を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
全国動物専門学校協会サロントリマー 3 級試験合格 部分カットができるようになる 犬に負担をかけないような、丁寧な扱いができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	【実務経験】	吉本真紀	トリマーとして36年	
		森 純子	トリマーとして19年	
		三村梨恵	トリマーとして17年	
		北村俊也	トリマーとして5年	
		野崎真優	トリマーとして4年	
		糸瀬春奈	トリマーとして3年	
		豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～15	基礎 部分的な、簡易カットの取得		お尻・顔等の部分的なカットとバリカンを使用した簡易的なカットの習得	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新ドッググルーミングマニュアル		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 実習にあたりシザーの練習や美容学の復習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トレーニング実習Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村尾智, 藤原
授 業 の 概 要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 トレーナーとして35年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～5	クリッカー集中		クリッカーを使ったトレーニング	
6～10	脚側行進中の伏臥		正しい位置での伏臥	
11～15	脚側行進中の停座		正しい位置での座れ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】テキストを読んで予習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トレーニング実習Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村尾智, 藤原
授 業 の 概 要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 トレーナーとして35年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～5	クリッカー集中		クリッカーを使ったトレーニング	
6～10	脚側行進中の伏臥		正しい位置での伏臥	
11～15	脚側行進中の停座		正しい位置での座れ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 出席率	50.0% 50.0%	【準備学習】テキストを読んで予習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護学各論Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
さまざまな疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院にて8年間勤務		
時間外に必要な学修				
学んだ内容を確認テストにて復習し、次回以降に活かす。				
回	テ ー マ	内 容		
1	代表的な徴候	全身徴候・特異的徴候・特異的病態		
2	代表的な呼吸器疾患 1	1) 呼吸器の復習 2) 肺炎 3) 肺水腫		
3	代表的な呼吸器疾患 2	4) 胸水 5) 犬伝染性気管気管支炎		
4	代表的な呼吸器疾患 3	6) 猫の上部気道疾患 7) 気管虚脱		
5	代表的な呼吸器疾患 4	8) 短頭種気道症候群 9) 猫の喘息		
6	代表的な呼吸器疾患 5	10) 気胸 11) ジステンパー		
7	確認テスト	呼吸器疾患のまとめ		
8	代表的な循環器疾患 1	1) 循環器の復習 2) うっ血性心不全		
9	代表的な循環器疾患 2	3) 僧帽弁閉鎖不全症 4) 動脈管開存症		
10	代表的な循環器疾患 3	5) 右大動脈弓遺残症 6) 心室中隔欠損症		
11	代表的な循環器疾患 4	7) 心房中隔欠損症 8) 犬糸状虫症		
12	代表的な循環器疾患 5	9) 拡張型心筋症 10) 肥大型心筋症		
13	代表的な循環器疾患 6	11) 心膜液貯留		
14	確認テスト	循環器疾患のまとめ		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
	エドゥワードプレス出版)愛玩動物看護師 カリキュラム準拠教科書第9巻および第1 巻	期末試験 確認テスト 課題・レポート	80.0% 10.0% 10.0%	授業の進捗状況に より、授業予定内 容の変更あり

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護学各論Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ、動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
動物の主な疾患の看護について実践でき、また飼主に疾病の予防を説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		岡山市内の動物病院で1年、広島市内の動物病院で3年半獣医師として勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	消化器の病気 5	腸の疾患 タンパク漏出性腸症、炎症性腸疾患、食事反応性下痢、抗菌薬反応性下痢、腸リンパ管拡張症		
2	消化器の病気 5	消化管内異物・腸閉塞・腸重積		
3	消化器の病気 5	胃の疾患 胃拡張胃捻転症候群・幽門狭窄・胃炎		
4	消化器の病気 5	食道の疾患 （右大動脈弓遺残含む）		
5	消化器の病気 5	口腔の疾患 1 歯の形態機能（復習） 不正咬合、乳歯遺残、口蓋裂・歯周病		
6	消化器の病気 5	ヘルニア（臍・鼠径・会陰・横隔膜）		
7	消化器の病気 5	肝臓疾患 肝炎、肝硬変、肝リピドーシス		
8	消化器の病気 5	門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫		
9	消化器の病気 5	膵炎、膵外分泌不全		
10	循環器疾患	循環器系：心臓の構造と働き（復習）		
11	心臓の疾患	僧帽弁閉鎖不全 犬糸状虫症		
12	心臓の疾患	動脈管開存		
13	前期の復習	おさらい		
14	復習テスト	復習テストの実施		
15	期末テスト	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
	・コンパニオアニマルの健康管理学 ・くわしい犬の病気大図典	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	復習を確認テスト で行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物病理学		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	田上 真紀
授 業 の 概 要				
動物看護において、動物がどのような状況にあり、どのような看護が必要かは、発生のメカニズムと病理学的特徴を理解することから始まる。ついては、生理機能の障害からどのように病気が発生し、どのように変化し、どのように回復していくのかを理解する。さらに、病気の特徴や分類、名称、物理学的検査方法などの病理学専門用語を用いて学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解し、動物看護に活かす。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、腫瘍などの項目について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に含む				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師として１０年、動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	動物病理学の概要 病気の変遷、成り立ちと変遷	動物病理学を学ぶ意義を理解し、病気の変遷と動物看護学の関連を知る		
2	細胞の死	動物病理学における細胞の死を学ぶ		
3	循環障害①	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ		
4	循環障害②	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ		
5	退行性病変①	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ		
6	退行性病変②	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ		
7	進行性病変①	動物病理学における進行性病変について学ぶ		
8	進行性病変②	動物病理学における進行性病変について学ぶ		
9	炎症①	動物病理学における炎症について学ぶ		
10	炎症②	動物病理学における炎症について学ぶ		
11	炎症③	動物病理学における炎症について学ぶ		
12	先天異常	動物病理学における先天異常について学ぶ		
13	免疫異常	動物病理学における免疫異常について学ぶ		
14	老齢性病変	動物病理学における老齢性病変について学ぶ		

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト3（動物の疾病と予防および回復）ファームプレス 系統看護学講座（病理学）医学書院 系統看護学講座（病態生理学）医学書院		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物感染症学Ⅲ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	鈴木　ひとみ
授 業 の 概 要				
伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫について、それらの特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。「動物感染症学Ⅱ」では、動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を習得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼い主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。				
授業終了時の到達目標				
病原微生物による感染症について飼い主に説明ができるようになる。 感染症の予防の重要性を飼い主に説明できるようになる ワクチンについて理解し、飼い主にその必要性、注意点が説明できるようになる 感染症の予防について正しい技術と知識を身に付け、実践できるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師としての10年の実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テ　　マ		内　　　容	
1	動物病原体		動物病原体について復習する	
2	病原性について		病原微生物の病原性について学習する	
3	感染症の予防①		感染の成り立ちに必要な要因から感染予防について考える	
4	感染症の予防②		"	
5	感染症の予防③		"	
6	ワクチン①		ワクチンとは何かを学習する	
7	ワクチン②		生ワクチンと不活化ワクチンについて学習する	
8	ワクチン③		ワクチンの必要性について学習する	
9	ワクチン④		ワクチンの効果と副作用について学習する	
10	ワクチネーションプログラム①		イヌのワクチネーションプログラムについて学習する	
11	ワクチネーションプログラム②		ネコのワクチネーションプログラムについて学習する	
12	寄生虫の感染予防①		内部寄生虫の感染予防について学習する	
13	寄生虫の感染予防②		外部寄生虫の感染予防について学習する	
14	まとめ		感染予防について全般的な復習	

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト3（ファームプレス） 基礎動物看護学3 動物感染症学（インターズー）		期末試験 出席率	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物栄養学Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的であるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
栄養学総論に基いて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	動物栄養学総論	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する		
2	基礎栄養学	動物栄養学の中の基本を知る		
3	基礎栄養素 水	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ		
4	基礎栄養素 タンパク質	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ		
5	基礎栄養素 炭水化物	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ		
6	基礎栄養素 脂肪	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ		
7	基礎栄養素 ミネラル	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ		
8	基礎栄養素 ビタミン	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ		
9	イヌとネコの栄養要求の違い	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について学ぶ		
10	ライフステージ別の栄養管理①	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
11	ライフステージ別の栄養管理②	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
12	ライフステージ別の栄養管理③	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
13	ライフステージ別の栄養管理④	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		

回	テ ー マ	内 容		
14	ライフステージ別の栄養管理⑤	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護実習Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	長尾, 齋藤小
授 業 の 概 要				
講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身に着ける。 また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。 動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
修得した知識の実践力を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として21年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		1年時の復習	
2	注射薬充填		皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の部位を学び、注射時の保定の手技を身につける犬猫の取扱いを知り、基本的な保定法を身につける	
3	狂犬病注射実施		狂犬病注射実施時の看護師の役割を果たす	
4	フィラリア検査		フィラリア検査法について	
5～6	消毒法		消毒薬の種類、消毒法について理解する	
7～8	輸液管理		輸液の目的を理解し、適切な準備接続および操作方法が実践できる	
9～10	採血		採血時の保定に必要な解剖生理学を学ぶ	
11	検体処理		検体の適切な取り扱いを身につける	
12	調剤		調剤用語・計算方法	
13	実技テスト		実技テスト	
14	まとめ		前期まとめ	
15	期末テスト		期末テストを実施	
教科書・教材			評価基準	評価率
動物看護実習テキスト			期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護実習Ⅲ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	長尾, 齋藤小
授 業 の 概 要				
「動物看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」での実践能力に応用力を用いて診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。 全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。また、手術関連業務として外科手術に必要な「術前準備と術後業務」「麻酔器・モニター機器」までの意義を理解し、機器の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし適切な取り扱いができるようになる。動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として21年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	バイタルチェック	イヌとネコの全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告の仕方を学ぶ		
2	衛生管理・入院管理	感染の定義と感染症を理解し、滅菌・消毒・殺菌への理解を深める。また、感染の予防の実践の仕方を学ぶ		
3	手術関連業務①	リネン類・手術器具の種類と用途目的を理解し適切な管理と準備を学ぶ		
4	手術関連業務②	縫合糸の種類と特性、用途目的を理解する。また、適切な滅菌作業と管理運用を学ぶ		
5	術前術後の看護①	気管挿管、血管確保の目的を理解し、準備と補助の手技を学ぶ		
6	術前術後の看護②	術前・中・後の輸液の目的を理解し、準備と接続、輸液管理の手技を学ぶ		
7	術前術後の看護③	術野の毛刈りと消毒の手技を学ぶ		
8	術前術後の看護④	手洗いおよび術着、手袋の着用の手技を学ぶ		
9	術前術後の看護⑤	術前術後看護①～④までの復習 術野の毛刈り・消毒、手洗いおよび術着・手袋の着用の手技を実践する		
10	術前術後の看護⑥	術創の保護を学び、術後のバイタルチェックの報告と記録、状況に応じた動物管理を学ぶ		
11	麻酔モニタリング①	麻酔器の仕組みを理解し適切に接続できる手技を身に付ける		
12	麻酔モニタリング②	モニター機器の仕組みを理解し適切な装着接続を学ぶ モニター数値の正常値・異常値を把握し理解する		
13	麻酔モニタリング③	術中のバイタルチェックの監視報告と状況に応じた動物管理を学ぶ		

回	テ ー マ	内 容		
14	麻酔モニタリング④	麻酔機器を獣医師の指示の基づき操作してみる		
15	期末試験	期末試験を実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験	60.0%	
		実習・実技評価	40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床検査学実習Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	安藤 雄治
授 業 の 概 要				
診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査および血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	臨床検査概論	臨床検査の意義を理解し、基本的手技を身につける。また、看護実践能力を身につける。		
2	検体処理概論	検体の適切な取り扱いを身につける		
3	検体処理① 血液採取法・保存法	血液採取法と各成分に応じた保存法について理解できる		
4	検体処理 尿の採取・保存法	尿の採取法と保存法を理解できる		
5	検体処理 採便法・保存法	採便法と保存法を理解できる		
6	顕微鏡	適切な顕微鏡の操作法および取り扱いを身につける		
7	顕微鏡 2	正しい操作と基本的なメンテナンス法が理解できる		
8	血液検査	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
9	血液検査 2	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
10	血液検査 3	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
11	血液検査 4	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
12	尿検査	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
13	尿検査 2	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		

回	テ ー マ	内 容		
14	糞便検査	糞便検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
15	糞便検査 2	糞便検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験	100.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床検査学実習Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	安藤 雄治
授 業 の 概 要				
診療現場で必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査および血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	眼科検査	診療現場で主に行われる眼科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
2	眼科検査 2	診療現場で主に行われる眼科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
3	耳の検査	診療現場で主に行われる耳の検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
4	耳の検査 2	診療現場で主に行われる耳の検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
5	皮膚科検査	診療現場で主に行われる皮膚科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
6	皮膚科検査 2	診療現場で主に行われる皮膚科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
7	内視鏡検査	内視鏡検査の原理と方法、意義を理解できる		
8	内視鏡検査	内視鏡検査の原理と方法、意義を理解できる		
9	神経学的検査	神経学的検査の方法と意義を理解できる		
10	神経学的検査 2	神経学的検査の方法と意義を理解できる		
11	CT・MRI検査	コンピュータ断層撮影法（CT）と磁気共鳴画像法（MRI）の原理と手技について理解できる		
12	CTの・MRI検査 2	コンピュータ断層撮影法（CT）と磁気共鳴画像法（MRI）の原理と手技について理解できる		
13	血液検査	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		

回	テ ー マ	内 容		
14	血液検査 2	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
15	血液検査 3	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		期末試験	100.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物外科看護学実習Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	須崎, 久保
授業の概要				
周術期の術前・術中・術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。 看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また麻酔が円滑に行われるためには、日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に含まれる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		獣医師として４４年動物病院に勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ		内 容	
1	手術補助		外科手術の流れ	
2	器具・機材の準備①		手術器具	
3	器具・機材の準備②		縫合材料（糸と針）	
4	器具・機材の準備③		ドレープ類・ガウンの意義	
5	器具・機材の準備④		電気メス	
6	器具・機材の準備⑤		器具の滅菌・管理	
7	避妊・去勢手術		外科手術を補助するための必要な基礎知識	
8	麻酔前評価		術前の患者動物の評価	
9	まとめ①		外科看護技術の修得	
10	術前の準備		手術室の準備（日常から当日まで）	
11	術者の準備①		手指の消毒法	
12	術者の準備②		ガウン・グローブ装着方法	
13	動物の準備①		術野の準備	
14	動物の準備②		ドレープのかけ方	

回	テ ー マ	内 容		
15	血管確保	血管確保の準備・手順		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）周術期の動物看護パーフェクトナビ（インターズー）動物看護師のための麻酔超入門（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物外科看護学実習Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	須崎, 久保
授業の概要				
周術期の術前、術中、術後において動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を習得する。 看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また日ごろからの手術器具、機材の管理が必要となる。 周術期における手術助手として必要な知識と技術を習得する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に含まれる				
実務経験有無				
有		実務経験内容 獣医師として４４年動物病院に勤務する。これまでの臨床経験や場面を教材として指導する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ		内 容	
1	麻酔前評価		術前の看護動物の評価	
2	麻酔維持		モニタリングの目的	
3	動物のモニター①		五感を使ったモニター方法①	
4	動物のモニター②		五感を使ったモニター方法②	
5	麻酔のモニター①		換気のモニター	
6	麻酔のモニター②		酸素化のモニター	
7	血液循環		血液循環とは	
8	血液循環のモニター①		心電図モニター	
9	血液循環のモニター②		心電図モニター	
10	血液循環モニター③		血圧のモニター	
11	血液循環モニター④		血圧のモニター	
12	その他のモニター①		体温のモニター	
13	その他のモニター②		尿量モニター	
14	麻酔記録		麻酔記録の意義	

回	テ ー マ	内 容		
15	麻酔覚醒①	麻酔覚醒とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト6「動物看護の実践」ファームプレス 専門分野「動物外科看護技術」インターズー		期末試験 出席率	90.0% 10.0%	【事前学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い知識を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
・ 動物病院の概要（地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理解し、自身が動物病院でどのように加わるかを考える ・ 学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する ・ 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習する中で、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～6	体験型実習	オリエンテーションを受け、実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その職務内容を理解する		
7～12	体験型実習	可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務・役割を果たす		
13～18	体験型実習	チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員がそれぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、良好なコミュニケーションを構築する		
19～24	体験型実習	動物愛護の精神・言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について理解する		
25～30	体験型実習	学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連について認識を深める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 出席率	90.0% 10.0%	・「動物看護総合実習」の成績評価については、インターンシップ評価表の結果をもとに点数化し評価する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
動物外科看護学Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	須崎、久保	
授 業 の 概 要					
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する					
授業終了時の到達目標					
授業概要に記載					
実務経験有無		実務経験内容			
有	香川県内に動物病院を開院し、院長として勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する				
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～3	外傷・創傷管理		外傷および創傷管理について学ぶ		
4	術前準備①		・ 術前準備および術前検査について学ぶ ・ 無菌的処置の重要性について学ぶ		
5	術前準備②		・ リネン類について学ぶ ・ 手術器具の種類、準備の仕方を学ぶ		
6～7	術前準備③		・ 手術台の準備と動物の適切なポジショニングを学ぶ ・ 術野の消毒について学ぶ ・ 手洗い、手術着、手袋の着用法について学ぶ		
8	麻酔管理①		麻酔処置時における動物看護師の役割について学ぶ		
9	麻酔管理②		麻酔リスクの評価（ASA分類）について学ぶ		
10	麻酔管理③		・ 麻酔前投与について学ぶ ・ 注射麻酔について学ぶ		
11	麻酔管理④		・ 吸入麻酔について学ぶ ・ 麻酔導入時、覚醒時のリスクと対処法について学ぶ		
12～13	麻酔管理⑤		・ 麻酔看視項目の監視方法、目的について学ぶ ・ 麻酔記録の作成法を学ぶ		
14	まとめ		これまでのまとめを行う		
15	期末試験		期末試験の実施		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
・ 動物看護実習テキスト（インターズー） ・ 周術期の動物看護パーフェクトナビ（インターズー） ・ 動物看護師のための麻酔超入門（インターズー）			期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物外科看護学Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	須崎、久保
授 業 の 概 要				
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有	香川県内に動物病院を開院し、院長として勤務。これまでの臨床経験や場面を教材とし指導する			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～3	術中補助①	代表的な手術器具の名称と使用法を学ぶ		
4～5	術中補助②	代表的な縫合材の分類と使用法について学ぶ		
6	術中補助③	代表的な歯科器具の名称と使用法について学ぶ		
7	術中補助④	術中における直接補助・間接補助の内容について学ぶ		
8～9	術後管理①	・麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて学ぶ ・疼痛管理の意義と目的について学ぶ		
10	術後管理②	・術創管理と包帯法について学ぶ ・退院時の注意点と飼い主への説明の仕方を学ぶ		
11	救急救命①	エマージェンシーの原因と病態について学ぶ		
12	救急救命②	・一次救命措置（BLS）について学ぶ ・二次救命措置（ALS）について学ぶ		
13	救急救命③	気管挿管と心肺蘇生の方法について学ぶ		
14	まとめ	これまでのまとめを行う		
15	期末試験	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・動物看護実習テキスト（インターズー） ・周術期の動物看護パーフェクトナビ（インターズー） ・動物看護師のための麻酔超入門（インターズー）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
動物臨床検査学		動物看護総合学科／2年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	安藤 雄治	
授 業 の 概 要					
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する					
授業終了時の到達目標					
授業概要に記載					
実務経験有無		実務経験内容			
有		動物看護師として１５年、動物病院に勤務			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1	臨床検査 概論①		・ 臨床検査における愛玩動物看護師の役割について学ぶ ・ 臨床検査における、基準値、感度、特異度、精度管理について学ぶ		
2	臨床検査 概論②		検体採取法について学ぶ		
3	血液検査①		・ 血漿、血清の分離法について学ぶ ・ 全血球計算法（CBC）について学ぶ		
4～6	血液検査②		血液塗抹の作成および観察法について学ぶ		
7	血液検査③		ヘマトクリット管を用いた検査について学ぶ		
8～9	血液検査④		血液生化学検査の目的と意義について学ぶ		
10	血液検査⑤		血液凝固検査・血液ガス検査の目的と意義について学ぶ		
11	血液検査⑥		血液免疫学的検査の目的と意義について学ぶ		
12～13	尿検査		・ 尿の性状検査について学ぶ ・ 尿沈渣について学ぶ		
14	まとめ		これまでのまとめを行う		
15	期末試験		期末試験の実施		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
臨床動物看護学②「動物臨床検査学」（エデュワードプレス）			期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾, 齋藤小
授 業 の 概 要				
内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院で動物看護師として20年間勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	健康の保持・増進		健康診断の内容と目的	
4	診療補助に必要な技術①		診察における愛玩動物看護師の役割	
5	診療補助に必要な技術②		診察の準備と衛生管理	
6	診療補助に必要な技術③		・動物種ごとに応じた適切な接し方 ・保定の基本、目的および方法	
7	診療補助に必要な技術④		身体検査とアセスメント項目	
8	検査・処置に必要な技術①		注射器の取り扱いおよび管理方法	
9	検査・処置に必要な技術②		採血の目的と方法	
10	検査・処置に必要な技術③		・採尿の目的と方法 ・穿刺と吸引 ・各種カテーテル挿入	
11	検査・処置に必要な技術④		・酸素吸入とは ・マイクロチップの挿入	
12	投薬に関わる技術①		・薬の処方 ・内服薬の使用法 ・注射の注射法	
13	投薬に関わる技術②		・外用薬の使用法 ・薬浴の実施法 ・投薬前後の注意事項	
14	まとめ			
15	期末試験		期末試験の実施	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・動物看護コアテキスト第3版「臨床動物看護学Ⅰ（動物内科看護学）」		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人と動物の関係学		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学のおよび社会学的側面から、その実態、課題などを含めて理解する。				
授業終了時の到達目標				
動物の収集・飼育・利用の歴史について説明できる 動物の飼育と利用の現状について説明できる 動物介在活動と動物介在療法、動物介在教育の定義を説明できる 人間が動物をペットとして飼育するさまざまな理由を説明できる 人が動物を虐待するさまざまな理由を説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院にて2年間動物看護師として勤務		
時間外に必要な学修				
人と動物との関わり方について意識して観察するようにする				
回	テ ー マ		内 容	
1	人と動物の関わり方の歴史①		人と動物の関わり 文学・芸術における動物：日本	
2	人と動物の関わり方の歴史②		日本と西洋における動物との関わり方の比較	
3	現代の人と動物の関わり①		動物の飼育と利用の現状	
4	現代の人と動物の関わり②		人の生活に貢献する動物の役割	
5	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育①		動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育の定義と歴史	
6	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育②		動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには	
7	動物介在教育・動物介在療法・動物介在教育③		学校飼育動物の目的や実際、愛玩動物看護師の関わり	
8	人間と動物の関わり①		人はなぜペットを飼うのか 一人が動物をペットとして飼育する理由－ ペット飼育の歴史と現状	
9	人間と動物の関わり②		ペットの飼育 一人と動物がともに幸せに暮らすために必要なこと－ ペットへの愛着と依存	
10	人間と動物の関わり③		ペットロスの定義と対策	
11	人間の福祉と愛玩動物の関わり①		動物虐待の定義と背景 動物虐待への対処	
12	人間の福祉と愛玩動物の関わり②		動物虐待の現状と法規制 多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）の定義と背景	
13	人間の福祉と愛玩動物の関わり③		愛玩動物が子どもや高齢者に与える恩恵 加齢による飼育困難 Veterinary Social Workと動物看護師	

回	テ ー マ	内 容		
14	これまでの復習	これまでに学習した内容を復習する		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻 (EDUWARD Press)		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
適正飼養指導論Ⅰ		動物看護総合学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解したうえで、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政のしくみについて理解する				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	香川県内の動物病院で21年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	愛玩動物の飼養①	愛玩動物の適正飼養		
2	愛玩動物の飼養②	愛玩動物の適正飼養		
3	愛玩動物の飼養③	愛玩動物の適正飼養		
4	愛玩動物の飼養④	愛玩動物の適正飼養		
5	愛玩動物の飼養⑤	愛玩動物の適正飼養		
6	愛玩動物の飼養⑥	愛玩動物の適正飼養		
7	動物終末期（飼い主）ケア①	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
8	動物終末期（飼い主）ケア②	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
9	動物終末期（飼い主）ケア③	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
10	動物終末期（飼い主）ケア④	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
11	適正飼養の推進①	適正飼養に関する支援の目的と活動		
12	適正飼養の推進②	適正飼養に関する支援の目的と活動		
13	適正飼養の推進③	適正飼養に関する支援の目的と活動		
14	適正飼養の推進④	適正飼養に関する支援の目的と活動		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
	・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻（EDUWARD Press） ・授業毎の配布プリント	期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
適正飼養指導論Ⅱ		動物看護総合学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解したうえで、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政のしくみについて理解する				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	香川県内の動物病院で21年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	災害危機管理と支援①	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
2	災害危機管理と支援②	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
3	災害危機管理と支援③	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
4	災害危機管理と支援④	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
5	動物愛護管理行政①	動物愛護管理行政とは		
6	動物愛護管理行政②	動物愛護管理行政とは		
7	動物愛護管理行政③	動物愛護管理行政とは		
8	動物愛護管理行政④	動物愛護管理行政とは		
9	動物愛護管理行政⑤	動物愛護管理行政とは		
10	動物を適正に飼養するということ①	動物の適正な飼養方法		
11	動物を適正に飼養するということ②	動物の適正な飼養方法		
12	動物を適正に飼養するということ③	動物の適正な飼養方法		
13	動物を適正に飼養するということ④	動物の適正な飼養方法		
14	動物を適正に飼養するということ⑤	動物の適正な飼養方法		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
10	・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻（EDUWARD Press） ・授業毎の配布プリント	期末試験	80.0%	
		出席率	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ペット美容学Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 真紀
授 業 の 概 要				
座学 実技				
授業終了時の到達目標				
ＪＫＣトリマーライセンスＣ級試験合格を目指す				
実務経験有無	実務経験内容			
有	トリマーとして28年 これまでの経験を生かし授業を展開したと同時にライセンス試験のための対策も行う。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 2	プードルケネル&ラム	クリッパー実演		
3～ 5	プードルケネル&ラム講義	全体の切り方の注意事項の説明		
6～ 7	プードルマイアミ	絵を書く カットの説明		
8～ 9	プードルボレロマンハッタン	絵を書く カットの説明		
10～ 11	サロントリマー 3級試験対策	過去問題を解きながら対策		
12～ 13	今までのおさらい	仕事で使う事例でのおさらい		
14～ 15	スタンダードに基いて考えるトリミング	骨格などの説明		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
JKCドッググルーミングマニュアル		期末試験	100.0%	授業前に過去問題を復習すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
プロフェッショナルトリミングⅠ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森, 野崎, 北村, 糸瀬, 三村
授 業 の 概 要				
様々なトリミング犬種のカットスタイルをマスターする				
授業終了時の到達目標				
2時間以内にカットの仕上げまでができるようになる				
JKCトリマーライセンスC級試験合格を目指す				
実務経験有無	実務経験内容			
有	【実務経験】 吉本真紀 トリマーとして36年 森 純子 トリマーとして19年 三村梨恵 トリマーとして17年 北村俊也 トリマーとして5年 野崎真優 トリマーとして4年 糸瀬春奈 トリマーとして3年 豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～4	応用	トリミング犬種を中心とした実習 トリミング実習に続くカットの仕上げを行う		
5	モデル犬チェック	2時間で担当犬の全身カットを仕上げる。 ライセンス試験に向けての練習		
6～9	応用	トリミング犬種を中心としたトリミング実習 犬種、犬体に応じたカットを考える		
10	モデル犬チェック	2時間で担当犬の全身カットを仕上げる。 ライセンス試験に向けての練習		
11～14	応用	トリミング犬種を中心としたトリミング実習 犬種、犬体に応じたカットを考える		
15	モデル犬チェック	2時間で担当犬の全身カットを仕上げる。 ライセンス試験に向けての練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新ドッググルーミングマニュアル		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
プロフェッショナルトリミングⅡ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森, 野崎, 北村, 糸瀬, 三村
授 業 の 概 要				
様々なトリミング犬種のカットスタイルをマスターする				
授業終了時の到達目標				
2時間以内にカットの仕上げまでができるようになる				
J K CトリマーライセンスC級試験合格を目指す				
実務経験有無		実務経験内容		
有	【実務経験】	吉本真紀	トリマーとして36年	
		森 純子	トリマーとして19年	
		三村梨恵	トリマーとして17年	
		北村俊也	トリマーとして5年	
		野崎真優	トリマーとして4年	
		糸瀬春奈	トリマーとして3年	
		豊富な実務経験により様々な犬への対応などのサポート・指導をし学生のロールモデルとなる		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～3	トリミング基礎復習	トリミング犬種を中心とした実習 犬種別のカット技術を身に着ける		
4	モデル犬チェック	2時間で担当犬の全身カットを仕上げる。 ライセンス試験に向けての練習		
5～7	トリミング基礎復習	トリミング犬種を中心とした実習 犬種別のカット技術を身に着ける		
8	モデル犬チェック	2時間で担当犬の全身カットを仕上げる。 ライセンス試験に向けての練習		
9～11	トリミング基礎復習	トリミング犬種を中心とした実習 犬種別のカット技術を身に着ける		
12	モデル犬チェック	2時間で担当犬の全身カットを仕上げる。 ライセンス試験に向けての練習		
13～15	トリミング基礎復習	トリミング犬種を中心とした実習 犬種別のカット技術を身に着ける		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トレーニング実習Ⅴ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村尾 智
授 業 の 概 要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 トレーナーとして26年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～5	クリッカー集中		クリッカーを使ったトレーニング	
6～10	脚側行進中の伏臥		正しい位置での伏臥	
11～15	脚側行進中の停座		正しい位置での座れ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】テキストを読んで予習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
トレーニング実習Ⅵ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村尾 智
授 業 の 概 要				
犬の集中力・正確さをやしなう				
授業終了時の到達目標				
脚側歩行訓練ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	【実務経験】 こと	トレーナーとして26年の実務経験 これまでのトレーナーとしての実績を活かし学生のロールモデルとなる		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～5	クリッカー集中	クリッカーを使ったトレーニング		
6～10	脚側行進中の伏臥	正しい位置での伏臥		
11～15	脚側行進中の停座	正しい位置での座れ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 出席率	50.0% 50.0%	【準備学習】テキストを読んで予習をしておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物繁殖学		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	西村 美笛
授 業 の 概 要				
繁殖は動物が存続する上で欠かせないものであり、雌雄がそれぞれ成長して生殖能力を有し受精により新たな個体（生命）が誕生する神秘的な営みである。本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。また、産褥期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へのアドバイスに役立てる。ブリーディングにおいて知っておかなければいけない交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める。また、イヌとネコ以外の動物についても繁殖に関して比較して学習する。				
授業終了時の到達目標				
イヌ、ネコの繁殖について説明ができる イヌの交配について説明ができる ネコの交配について説明ができる イヌ、ネコの生殖器について説明ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	雌の生殖器の構造と機能		雌の生殖器の構造と機能 各種動物の比較解剖	
2	雄の生殖器の構造と機能		雄の生殖器の構造と機能 各種動物の比較解剖	
3	性成熟と生殖周期① 生殖活動に関連するホルモン		雌イヌと雌ネコの性成熟と生殖周期 生殖活動に関連するホルモン	
4	性成熟と生殖周期② 生殖活動に関連するホルモン		各種動物の性成熟と生殖周期 生殖活動に関連するホルモン	
5	雌イヌの繁殖①（排卵と交配）		イヌの排卵、交配時期	
6	雌イヌの繁殖②（妊娠、分娩）		イヌの妊娠、分娩	
7	雌ネコの繁殖①（排卵と交配）		ネコの排卵、交配時期	
8	雌ネコの繁殖②（分娩） 帝王切開		雌ネコの妊娠、分娩	
9	出産①		出産の立ち会い方	
10	出産③		助産	
11	難産、帝王切開		生まれてきた子犬の健康維持について	
12	子犬の健康維持について		生まれてきた子犬の健康維持について	
13	離乳期の飼い方		離乳食の与え方	
14	まとめ		まとめ	

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎動物看護学①動物形態機能学 動物繁殖学（インターズー） 動物看護のための小動物繁殖学（ファームプレス） 獣医繁殖学（文栄堂出版）		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	事前学習 前回の授業の内容 を熟読すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護学各論Ⅲ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ、動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
動物の主な疾患の看護について実践でき、また飼主に疾病の予防を説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として7年、動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	呼吸器の病気 1	呼吸器系の解剖生理を復習する 呼吸器の疾患（鼻汁、くしゃみ、咳）		
2	呼吸器の病気 2	呼吸器の疾患（ケンネル・コフ、上部気道感染症候群）		
3	呼吸器の病気 3	呼吸器の疾患（肺炎、水胸、膿胸、血胸）		
4	呼吸器の病気 4	呼吸器の疾患（気胸、肺気腫、気管虚脱、横隔膜ヘルニア）		
5	泌尿器の病気 1	泌尿器系の局所解剖と生理を復習する 泌尿器系の主な症状と検査		
6	泌尿器の病気 2	泌尿器系の疾患（腎不全）		
7	泌尿器の病気 3	泌尿器系の疾患（下部尿路疾患）		
8	生殖器の病気 1	生殖器系の局所解剖と生理を復習する		
9	生殖器の病気 2	生殖器系の疾患（子宮蓄膿症、乳腺腫瘍）		
10	生殖器の病気 3	生殖器系の疾患（前立腺肥大、潜在精巣、陰嚢ヘルニア）		
11	神経系の病気 1	神経系疾患の局所解剖と生理を復習		
12	神経系の病気 2	神経系の疾患（椎間板ヘルニア、水頭症）		
13	神経系の病気 3	神経系の疾患（てんかん、変性性腰仙部狭窄症）		
14	神経系の病気 4	神経系の疾患（環椎軸椎脱臼、脊椎奇形）		
15	期末テスト	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
	・コンパニオアニマルの健康管理学 ・くわしい犬の病気大図典	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	復習を確認テスト で行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護学各論Ⅳ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ、動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
動物の主な疾患の看護について実践でき、また飼主に疾病の予防を説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として動物病院に7年勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	消化器の病気 5	腸の疾患 タンパク漏出性腸症、炎症性腸疾患、食事反応性下痢、抗菌薬反応性下痢、腸リンパ管拡張症		
2	消化器の病気 5	消化管内異物・腸閉塞・腸重積		
3	消化器の病気 5	胃の疾患 胃拡張胃捻転症候群・幽門狭窄・胃炎		
4	消化器の病気 5	食道の疾患 （右大動脈弓遺残含む）		
5	消化器の病気 5	口腔の疾患 1 歯の形態機能（復習） 不正咬合、乳歯遺残、口蓋裂・歯周病		
6	消化器の病気 5	ヘルニア（臍・鼠径・会陰・横隔膜）		
7	消化器の病気 5	肝臓疾患 肝炎、肝硬変、肝リピドーシス		
8	消化器の病気 5	門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫		
9	消化器の病気 5	膵炎、膵外分泌不全		
10	循環器疾患	循環器系：心臓の構造と働き（復習）		
11	心臓の疾患	僧帽弁閉鎖不全 犬糸状虫症		
12	心臓の疾患	動脈管開存		
13	前期の復習	おさらい		
14	復習テスト	復習テストの実施		
15	期末テスト	期末試験の実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
	・コンパニオアニマルの健康管理学 ・くわしい犬の病気大図典	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	復習を確認テスト で行う

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
動物薬理学Ⅰ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子	
授 業 の 概 要					
薬の基礎知識、薬理学の基礎を理解する。 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。					
授業終了時の到達目標					
愛玩動物看護師は動物病院等での薬に関する業務を滞りなく遂行できる知識を修得する。 ・薬の適切な保管管理を理解し、説明することができる。 ・投薬に際し、薬の適切な取り扱いを理解し、説明することができる。 ・獣医師の処方方を的確に理解し、説明することができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練業務 7年			
時間外に必要な学修					
各項目についての復習 各章ごとに実施される、課題の提出または確認テストのための学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～2	愛玩動物看護師による薬物の取扱い		1) 薬理学概論 2) 医薬品の基準と分類 3) 医薬品の開発		
3～5	動物薬理学の基礎		1) 薬と薬理作用 2) 薬理作用の発現機構 3) 薬の剤形と投与方法 4) 生体内での薬の動態（吸収、分布、代謝、排泄） 5) 薬効に影響を与える因子 6) 薬の有害作用		
6～8	神経系に作用する薬		1) 神経系の基本事項 2) 全身麻酔薬 3) 局所麻酔薬 4) 鎮痛薬 5) 骨格筋弛緩薬 6) 鎮静薬・抗痙攣薬 7) 問題行動の治療薬		
9～12	循環器・泌尿器に作用する薬		1) 血管拡張薬（降圧薬） 2) 心不全治療薬 3) 抗不整脈薬 4) 利尿薬 5) 抗利尿薬		
13～14	呼吸器系に作用する薬		1) 呼吸興奮薬 2) 鎮咳薬 3) 抗喘息薬（気管支拡張薬）		
15	期末試験				
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻（エデュワードプレス） 愛玩動物看護師の教科書3（緑書房）			確認テスト 期末試験	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物薬理学Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物看護師は動物病院等での薬に関する業務を滞りなく遂行できる知識を修得する。 ・投薬に際し、薬の適切な取り扱いを理解し、説明することができる。 ・獣医師の処方方を的確に理解し、説明することができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練業務 7年			
時間外に必要な学修				
各項目についての復習 各章ごとに実施される、課題の提出または確認テストのための学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～3	消化器に作用する薬	1) 制吐薬と催吐薬 2) 抗潰瘍薬 3) 消化管運動促進（調整）薬および抑制薬（鎮痙薬） 4) 止瀉（制瀉）薬 5) 瀉下薬（緩下薬、下剤） 6) 肝・膵疾患の治療薬		
4～7	オータコイド、内分泌・代謝系の薬	1) オータコイド 2) 抗炎症薬 3) 糖尿病治療薬 4) 甲状腺機能障害の治療薬 5) 脂質代謝異常の治療薬 6) 骨代謝異常の治療薬		
8～9	血液に作用する薬	1) 貧血の発生機序と抗貧血薬 2) 血液凝固阻害薬 3) 血液凝固促進薬（止血薬）		
10	免疫系に作用する薬	1) 免疫に影響を与える薬 2) ワクチン		
11～14	化学療法薬	1) 抗腫瘍薬 2) 抗菌薬・抗真菌薬 3) 駆虫薬・抗原虫薬 4) 殺虫薬 5) 消毒薬		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻(エデュワードプレス) 愛玩動物看護師の教科書3(緑書房)		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。また、関連するさまざまな環境要因とヒトの健康である疾病予防、早期発見、健康維持および増進に役立てる総合的な学科目である。ヒトと動物の共生などを対象とする科目では、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生があり、滅菌と消毒、動物防疫学についても学習する。将来、動物看護師として動物病院で勤務する際に衛生面で注意すべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすよう学習する。				
授業終了時の到達目標				
公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院で6年の勤務、現在はペットショップで勤務する		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	真菌による人獣共通感染症①		真菌による主な人獣共通感染症に入る前に、真菌の性状について振り返る	
2	真菌による人獣共通感染症②		真菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（皮膚糸状菌症、クリプトコッカス症）	
3	寄生虫による人獣共通感染症①		寄生虫による人獣共通感染症の中で、原虫によるものについて、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（原虫について、トキソプラズマ症）	
4	寄生虫による人獣共通感染症②		寄生虫による人獣共通感染症の中で、原虫によるものについて、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（ジアルジア症、クリプトスポリジウム症、アメーバ赤痢）	
5	寄生虫による人獣共通感染症③		原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（線虫によるもの、条虫によるもの）	
6	寄生虫による人獣共通感染症④		原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療、予防方法について学ぶ（寄生性節足動物によるもの）	
7	滅菌と消毒①		滅菌と消毒の違いについて学ぶ	
8	滅菌と消毒②		物理的滅菌方法について学ぶ	
9	滅菌と消毒③		物理的消毒方法について学ぶ	
10	滅菌と消毒④		化学的滅菌方法について学ぶ	
11	滅菌と消毒⑤		化学的消毒方法について学ぶ	

回	テ ー マ	内 容		
12	人獣共通感染症の対策①	人獣共通感染症の対策について学ぶ		
13	人獣共通感染症の対策②	伴侶動物と共生する上での人獣共通感染症の対策について学ぶ		
14	人獣共通感染症の対策③	院内感染とは何か、またその対策について学ぶ		
15	期末試験	期末試験を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護の教科書（緑書房）		期末試験 出席率	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
比較動物学Ⅰ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
伴侶動物とは異なる生理・生態・行動・習性・疾病・関係法令・飼育管理方法などを学ぶことにより、小動物臨床現場において応用可能な知識・技術を習得し、臨機応変な対応・考え方のできる動物看護師となり、社会人として必要な教養や一般常識を身に付けることが重要である。それぞれの動物に対し、伴侶動物とは異なる愛護精神が必要となるため、多様性のある物事のとらえ方、動物との接し方を学び、滑動物看護師としてどのように関わっていくかを考え思慮を深める。				
授業終了時の到達目標				
産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、多方向から看護対象をとらえることが出来る看護感を養うとともに、正しい知識を身に付けてそれを社会に普及・啓発し動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する人材となることを目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院にて2年間就業		
時間外に必要な学修				
特になし				
回	テ ー マ		内 容	
1	産業動物学授業の導入		産業動物とはどのような動物か。 産業動物の社会的役割と目的。 産業動物と伴侶動物の違いは何か。	
2	ウシ①		ウシの歴史、特性・品種	
3	ウシ②		ウシの解剖生理・繁殖生理	
4	ウシ③		ウシの飼育管理	
5	ブタ①		ブタの歴史、特性・品種	
6	ブタ②		ブタの飼養管理	
7	ニワトリ①		ニワトリの歴史、特性、品種	
8	ニワトリ②		ニワトリの飼養管理	
9	ウマ①		ウマの歴史、特性、品種	
10	ウマ②		ウマノ飼養管理	
11	ヒツジ・ヤギ		ヒツジ・ヤギの歴史、特性、品種 ヒツジ・ヤギの飼養管理	
12	畜産業について		我が国の畜産業の概要 地域による特性	
13	産業動物の動物福祉①		産業動物の福祉改善の歴史と定義 産業動物の飼養概況と動物福祉の課題	
14	産業動物の動物福祉②		産業動物に関する国際的福祉基準 動物	

回	テ ー マ	内 容		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護コアテキスト4（ファームプレス） 動物看護の教科書4（緑書房） 応用動物看護学3（インターズー）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
比較動物学Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
実験動物				
・ 動物実験の目的、意義について理解する				
・ 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する				
・ 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する				
・ 疾患モデル動物について理解する				
野生動物				
・ 野生動物の分類と生物多様性について理解する				
・ 鳥獣害の現状と保全の意義について理解する				
・ 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する				
・ 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する				
展示動物				
・ 展示動物の意義と動物園などの役割について理解する				
・ 動物園などにおける個体・群管理、行動管理について理解する				
・ 動物園などの施設管理について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		香川県内の動物病院にて2年間就業		
時間外に必要な学修				
身近に存在する動物たちに関心を持ち、その特徴などを気にするようにする				
回	テ ー マ		内 容	
1	実験動物学総論①		比較動物学Ⅰの復習 動物実験の目的と配慮 実験動物とは	
2	実験動物学総論②		実験動物の歴史 実験動物関連法規の誕生と発展 動物看護師と動物実験	
3	実験動物の管理学①		生体因子の管理学 遺伝的モニタリングの管理学 住居環境因子の管理学	
4	実験動物の管理学②		物理化学的因子の管理学 栄養学的管理学 微生物学的管理学（生物学的管理学）	
5	実験動物の管理学③		動物実験の基本技術 動物飼育管理上の注意点	
6	代表的な実験動物の特性と飼育管理①		マウス ラット	
7	代表的な実験動物の特性と飼育管理②		シリアン（ゴールデン）ハムスター チャイニーズハムスター スナネズミ	
8	代表的な実験動物の特性と飼育管理③		モルモット ウサギ サル類 その他の動物	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
9	疾患モデル動物	自然発症疾患モデル動物 トランスジェニック動物 代表的な実験的疾患モデル動物 研究資源バンク		
10	動物実験の代替法	代替法とその活用 代替法開発の背景と現在の課題		
11	野生動物①	野生動物の分類と生物多様性 鳥獣害の現状と管理の意義		
12	野生動物②	絶滅危惧種の定義に含まれる動物、原因、保全方法やその意義 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策 野生動物の救護		
13	野生動物③	野生動物救護の対象と内訳 野生動物の病気と事故 野生動物の救護体制		
14	展示動物	展示動物の意義と動物園などの役割 動物園などにおける個体、群管理、行動管理 動物園などの施設管理		
15	期末試験	学習した内容を試験する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書：愛玩動物看護師カリキュラム準拠 教科書6巻（EDUWARD Press） 参考書：動物看護コアテキスト第3版　2 基礎動物学Ⅱ（ファームプレス） 教　材：授業毎の配布プリント		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物医療コミュニケーション		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ				
授業終了時の到達目標				
基礎的なクライアントエデュケーション、事前問診、容態説明、などを理解し実施できるようになる。その際に必要となるコミュニケーション力を身につける。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	動物病院にて、動物看護師として21年間勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～4	クライアントエデュケーション	クライアントエデュケーション概論		
5～6	院内コミュニケーション	飼い主教育を主体としたインフォームドコンセントを理解する		
7～8	院内マネジメント	院内業務について理解する		
9～11	グリーフケア	グリーフケアの対応と禁忌		
12	メンタルヘルス	動物看護師のメンタルヘルスについて		
13	まとめ	まとめ		
14	総復習	総復習		
15	期末テスト	期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8（Eduward Press）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護実習Ⅰ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
講義で取得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を取得する				
授業終了時の到達目標				
今までの授業で得た知識と、動物病院で得る臨床経験から実践的な技術を習得する 受付での対応が一般的な接客業とは異なることを理解し、専門的視点で判断し対応できるようになる さまざまな診療の補助に必要な手技を習得する ウサギやハムスターの扱いについて理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院で動物看護師経験22年		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業ガイダンス		動物看護のための準備・心構え	
2	受付業務①		事務作業、物品の管理について	
3	受付業務②		薬袋の記入、説明の仕方	
4	受付業務③		飼い主対応、食事指導	
5	超音波検査①		超音波検査の基礎知識、注意点、保定法	
6	超音波検査②		超音波検査画像の観察と保定の実践	
7	薬用量の計算		薬品の取扱いと使用時の計算方法、調合方法	
8	診療補助①		緊急時の対応	
9～10	診療補助②		輸液管理について	
11	診療補助④		エキゾチックアニマルの保定	
12	実技試験の練習			
13	実技試験			
14	総まとめ		これまでに学んできたことの復習	
15	期末試験			
教科書・教材			評価基準	評価率
動物看護実習テキスト第3版（Eduward Press）			期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%
				その他

回	テ ー マ	内 容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物臨床看護実習Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	長尾 美花
授 業 の 概 要				
「動物看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」での実践能力に応用力を用いて診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。 全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。また、手術関連業務として外科手術に必要な「術前準備と術後業務」「麻酔器・モニター機器」までの意義を理解し、機器の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし適切な取り扱いができるようになる。動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。				
授業終了時の到達目標				
授業概要に記載				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として21年間、動物病院で勤務		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	前期末試験の見直し		前期末試験の解説と復習	
2～4	血液検査①		血液検査の準備、採血管の種類を覚える	
5	輸血		輸血の目的、準備と補助の手技を学ぶ	
6～8	X線検査		X線検査の基礎知識から保定の実践	
9	手術器具		翼現場で使用する手術関連器具を覚える	
10	診療補助		猫と暴れる犬の保定、対応方法	
11	実技試験の練習			
12	実技試験			
13	総まとめ		これまでに学んできたことの復習	
14	期末試験			
15	期末試験の解説			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
動物看護実習テキスト（インターズー）		実習・実技評価	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
AAA実習Ⅰ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	10回	0単位（20時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
・動物介在活動の意義を理解する ・よりよい活動方法を考える				
授業終了時の到達目標				
■通年到達目標とする ・スムーズなコミュニケーションが取れるようになる ・動物を介して、よりよい活動を工夫することができるようになる ・活動による色々な変化に着目し、それらについて考えることができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物看護師として、7年間動物病院に勤務		
時間外に必要な学修				
【事前準備】担当犬の衛生管理・シャンプー、レクリエーション準備				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	アニマルセラピーとは		アニマルセラピーを理解する	
3～ 10	AAA実習		デイサービス、グループホーム、幼稚園におけるAAA実習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
アニマルセラピー入門		実習・実技評価 出席率	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
AAA実習Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
・ 動物介在活動の意義を理解する ・ よりよい活動方法を考える				
授業終了時の到達目標				
■通年到達目標とする ・ スムーズなコミュニケーションがとれるようになる ・ 動物を介してよりよい活動を工夫することができるようになる ・ 活動による色々な変化に着目し、考えることができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	動物看護師として7年、動物病院に勤務する。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～15	AAA実習	デイサービス、グループホーム、幼稚園におけるAAA実習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
アニマルセラピー入門		出席率 実習・実技評価	50.0% 50.0%	【事前準備】セラピーに連れて行く 担当犬の衛生管理（シャンプー、レクリエーション準備）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物看護総合実習Ⅲ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い知識を身に付ける				
授業終了時の到達目標				
・ 動物病院の概要（地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理解し、チームで行う愛玩動物に対する医療を体験する ・ 総合的な動物看護の実務に関わる指導を受け、動物看護師の実務能力を修得する ・ 動物看護師としての役割や責任について、認識を深める				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～5	実務型実習	オリエンテーションを受け、動物看護師として実際に就業することを理解する		
6～10	実務型実習	指導者の助言を受けながら、動物病院における獣医師との連携の中で看護計画の展開を修得し、動物看護実務を遂行できる能力を養う		
11～15	実務型実習	動物看護に関する多くの項目についての技術を、可能な限り体験し学習する		
16～20	実務型実習	動物病院内における、動物看護師の役割やチームで行う愛玩動物に対する医療の機能、行動、責務について考えることができる		
21～25	実務型実習	動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など、基本的な事項についての認識を深める		
26～30	実務型実習	学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連を十分に把握し、実践に活かす		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	・ 「動物看護総合実習」の成績評価については、インターンシップ評価表の結果をもとに点数化し評価する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
卒業研究として実施する。 動物看護に関する研究課題を各自1テーマ設定し、事実・データの根拠とともに推察される自らの考えを検証し論文形式で文書を作成する。その過程で少人数の班に分かれ、それぞれの研究について他者の視点を交えブラッシュアップするためのディスカッションを実施する。また、その研究成果をスライド発表する。				
授業終了時の到達目標				
各自で興味のある事柄について課題を抽出・検証し、論理的思考をもって論文を作成することができる。 社会人として必要とされる能力（コミュニケーション能力・主体性・協調性等）を身に付ける。 パワーポイント等を用い、研究成果をまとめてわかりやすく伝えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練業務 7年		
時間外に必要な学修				
各自の研究内容の検証				
回	テ ー マ		内 容	
1	1) 導入		卒業研究の意義（企業が求める人材とは？求められるスキルの習得を目指す） どのようなものを作成するのか テーマの選定	
2	2) テーマの選定		興味のあるテーマを複数選定し、どのような検証方法が考えられるか検討し、その中から現実的なテーマを1つに絞る。	
3	3) 先行研究探索（書籍・論文等		研究テーマに関する先行研究を探索する。	
4～ 15	4) 検証方法の検討と決定 5) データの収集 6) 結果のまとめと考察→データ不足の場合、		検証方法を確定し、実行し、その結果をまとめ、考察する。また、論文を作成する。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		課題・レポート	100.0%	前期終了までにデータの取得を目指す。

作成者:吉本 由紀子

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物内科看護学Ⅲ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
卒業研究として実施する。 動物看護に関する研究課題を各自1テーマ設定し、事実・データの根拠とともに推察される自らの考えを検証し論文形式で文書を作成する。その過程で少人数の班に分かれ、それぞれの研究について他者の視点を交えブラッシュアップするためのディスカッションを実施する。また、その研究成果をスライド発表する。				
授業終了時の到達目標				
各自で興味のある事柄について課題を抽出・検証し、論理的思考をもって論文を作成することができる。 社会人として必要とされる能力（コミュニケーション能力・主体性・協調性等）を身に付ける。 パワーポイント等を用い、研究成果をまとめてわかりやすく伝えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練業務 7年		
時間外に必要な学修				
各自の研究内容の検証				
回	テ ー マ		内 容	
1～14	1) 論文の作製 2) 教員による論文チェック・論文完成 3) 発表資料作成（PowerPoint、Googleスライド等） 4) 発表練習		論文を作成し、完成させる。 発表用の資料を作成する	
15	発表		研究内容を分かりやすい形で発表資料を作成し、校内で発表する。	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		課題・レポート	100.0%	発表も行うが、評価は提出された論文で行う。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
適正飼養指導論Ⅰ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解したうえで、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政のしくみについて理解する				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	香川県内の動物病院で2年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	愛玩動物の飼養①	愛玩動物の適正飼養		
2	愛玩動物の飼養②	愛玩動物の適正飼養		
3	愛玩動物の飼養③	愛玩動物の適正飼養		
4	愛玩動物の飼養④	愛玩動物の適正飼養		
5	愛玩動物の飼養⑤	愛玩動物の適正飼養		
6	愛玩動物の飼養⑥	愛玩動物の適正飼養		
7	動物終末期（飼い主）ケア①	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
8	動物終末期（飼い主）ケア②	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
9	動物終末期（飼い主）ケア③	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
10	動物終末期（飼い主）ケア④	動物終末期（飼い主）ケアと動物看護師の役割		
11	適正飼養の推進①	適正飼養に関する支援の目的と活動		
12	適正飼養の推進②	適正飼養に関する支援の目的と活動		
13	適正飼養の推進③	適正飼養に関する支援の目的と活動		
14	適正飼養の推進④	適正飼養に関する支援の目的と活動		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
10	・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻（EDUWARD Press） ・授業毎の配布プリント	期末試験	80.0%	
		出席率	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
適正飼養指導論Ⅱ		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解したうえで、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政のしくみについて理解する				
授業終了時の到達目標				
愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	香川県内の動物病院で2年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	災害危機管理と支援①	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
2	災害危機管理と支援②	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
3	災害危機管理と支援③	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
4	災害危機管理と支援④	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン		
5	動物愛護管理行政①	動物愛護管理行政とは		
6	動物愛護管理行政②	動物愛護管理行政とは		
7	動物愛護管理行政③	動物愛護管理行政とは		
8	動物愛護管理行政④	動物愛護管理行政とは		
9	動物愛護管理行政⑤	動物愛護管理行政とは		
10	動物を適正に飼養するということ①	動物の適正な飼養方法		
11	動物を適正に飼養するということ②	動物の適正な飼養方法		
12	動物を適正に飼養するということ③	動物の適正な飼養方法		
13	動物を適正に飼養するということ④	動物の適正な飼養方法		
14	動物を適正に飼養するということ⑤	動物の適正な飼養方法		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
10	・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻（EDUWARD Press） ・授業毎の配布プリント	期末試験	80.0%	
		出席率	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物生活環境学		動物看護総合学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	林 勇樹
授 業 の 概 要				
動物の行動様式を理解したうえで、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設および動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。				
授業終了時の到達目標				
・ 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法について理解する。 ・ 様々な環境の整備・管理方法について理解する。 ・ 飼育マナーの必要性や目的について理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	香川県内の動物病院で2年間動物看護師として勤務			
時間外に必要な学修				
普段の生活の中で、動物たちが快適に暮らせる環境について考える。				
回	テ ー マ	内 容		
1	飼養環境整備①	犬と猫の飼養環境整備		
2	飼養環境整備②	犬と猫の飼養環境整備		
3	飼養環境整備③	犬と猫の飼養環境整備		
4	飼養環境整備④	犬と猫の飼養環境整備		
5	飼養環境整備⑤	犬と猫の飼養環境整備		
6	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン①	ペットツーリズムの現状と実施方法 など		
7	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン②	ペットツーリズムの現状と実施方法 など		
8	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン③	ペットツーリズムの現状と実施方法 など		
9	保護収容施設	動物愛護管理センター等の役割 など		
10	ペットへの教育・訓練施設	ペット飼育に関する課題 など		
11	動物介在教育施設	法的背景 など		
12	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応①	飼育マナーの必要性や目的 など		
13	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応②	飼育マナーの必要性や目的 など		
14	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応③	飼育マナーの必要性や目的 など		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容		
10	・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻（EDUWARD Press） ・授業毎の配布プリント	期末試験	80.0%	
		出席率	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ペット関連産業概論		動物看護総合学科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	齋藤 小百合
授 業 の 概 要				
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ ペット関連産業における職業倫理について理解する ・ ペットの飼養実態と市場規模について理解する ・ 各ペット関連産業の現状と課題について理解する ・ 動物取扱業について理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	動物看護師として、7年間動物病院に勤務			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	ペット関連産業における職業倫理①		ペット関連産業と職業倫理	
2	ペット関連産業における職業倫理②		ペット関連産業と職業倫理振り返り	
3	ペット関連産業における職業倫理③		愛玩動物看護者の倫理綱領の復習	
4	ペット関連産業における職業倫理④		商取引における関連法規の概要	
5	ペット関連産業における職業倫理⑤		動物の愛護及び管理に関する法律	
6	ペットの飼育実態と市場規模		ペットの飼育実態 各ペット産業の市場規模	
7	各ペット関連産業の現状と課題①		ペット産業の分類	
8	各ペット関連産業の現状と課題②		動物病院の現状	
9	各ペット関連産業の現状と課題③		動物病院以外のサービス業の現状	
10	各ペット関連産業の現状と課題④		生体販売業の現状	
11	動物取扱業①		動物取扱業制度の概要	
12	動物取扱業②		動物取扱責任者に必要な技術と知識	
13	理想とするペット関連産業①		自分が理想とするペット関連産業について考察する	
14	理想とするペット関連産業①		自分が理想とするペット関連産業について考察する	
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ　　マ	内　　　　容		
10	・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻（エデュワードプレス） ・授業毎の配布プリント	期末試験	80.0%	
		出席率	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
動物外科看護学実習Ⅲ		動物看護総合学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	吉本 由紀子
授 業 の 概 要				
卒業研究として実施する。 動物看護に関する研究課題を各自1テーマ設定し、事実・データの根拠とともに推察される自らの考えを検証し論文形式で文書を作成する。その過程で少人数の班に分かれ、それぞれの研究について他者の視点を交えブラッシュアップするためのディスカッションを実施する。また、その研究成果をスライド発表する。				
授業終了時の到達目標				
各自で興味のある事柄について課題を抽出・検証し、論理的思考をもって論文を作成することができる。 社会人として必要とされる能力（コミュニケーション能力・主体性・協調性等）を身に付ける。 パワーポイント等を用い、研究成果をまとめてわかりやすく伝えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		動物病院における獣医師としての診療業務 5年 医療用医薬品メーカーにおけるMR（医薬情報担当者）への教育訓練業務 7年		
時間外に必要な学修				
各自の研究内容の検証				
回	テ ー マ		内 容	
1	1) 導入		卒業研究の意義（企業が求める人材とは？求められるスキルの習得を目指す） どのようなものを作成するのか テーマの選定	
2	2) テーマの選定		興味のあるテーマを複数選定し、どのような検証方法が考えられるか検討し、その中から現実的なテーマを1つに絞る。	
3	3) 先行研究探索（書籍・論文等		研究テーマに関する先行研究を探索する。	
4～15	4) 検証方法の検討と決定 5) データの収集 6) 結果のまとめと考察→データ不足の場合、		検証方法を確定し、実行し、その結果をまとめ、考察する。また、論文を作成する。	
教科書・教材			評価基準	評価率
なし			課題・レポート	100.0%
				その他 前期終了までにデータの取得を目指す。